

騒音レベルの指標となる音の収集と解析について

(平成 19 年度 1 力年)

騒音の解説書等を開くと、最初に騒音の目安(指標)が載せられ解説されている。しかしながら、これらのデータは古く、また、当時と現在とでの評価方法が違ってきている。そのため、これらの「騒音目安(指標)」についての見直しの必要性が出ている。

全国環境研協議会騒音・振動部会において、騒音の目安づくりとして共同調査を実施しており、これらの共同調査に参加し、県内において騒音の目安となるような騒音レベルを収集した。

測定対象は交通機関の車内、店舗、娯楽施設、作業場、観光地等を選び、普通騒音計を用いて一定時間測定した。なお、基本的に等価騒音レベル(LAeq)で評価した。

交通機関では、電車、バス、自家用車の走行中車内の騒音レベルを測定した。電車では在来線車内(中央線)で73dB、特急車内(あずさ、かいじ)で71dB、路線バス車内69dB、普通乗用車内で66dBであった。特に路線バス車内については、従来の指標では80dB~85dBとされているが、今回の測定では大幅に低減されていた。

スーパーマーケットでは66dB、ホームセンターで55dBであった。

娯楽施設のパチンコ店で91dB、カラオケボックスで88dBであり、鉄工場(80dB)、スクラップ工場(77dB)よりも大きな音であった。

また、富士五湖においては、湖毎に測定したところ、騒音レベルの高い湖と低い湖とでは10dB以上(46dB~59dB)の開きがあった。今後、更に多くのデータを採取することで、湖毎の特徴が現れると思われる。

これらの結果は当協議会に提供し、全国から集められるデータと併せて、新たな騒音の目安を作成することとしている。

